

令和6年度水俣病発生地域間交流事業

業務委託報告書

有限会社ナマラエンターテイメント

令和7年3月7日

実施報告

概要

事業名	令和6年度水俣病発生地域間交流事業
実施日	第1回交流事業 令和6年11月6日、第2回交流事業 令和7年1月29日
会場	阿賀野市立笹岡小学校
参加校	阿賀野市立笹岡小学校 5年生、水俣市立水東小学校 5、6年生児童 各1クラス

報告内容

企画内容	<ul style="list-style-type: none">●新潟県内の小学校と熊本県水俣市内の小学校をリモートで結んで、水俣病・環境問題への理解を深める学習に取り組み、成果を発表する。<ul style="list-style-type: none">・授業単元に組み入れて取り組む・リモート授業 2回●子供たちがリモートによる授業へ楽しく、積極的に参加してもらうための企画・演出をすることにより、両校の親交・親睦を深める機会とする。<ul style="list-style-type: none">・高橋なんぐ（新潟お笑い集団NAMARA）によるMC・クラス全体で出演できる配信環境の設営
業務内容	<ul style="list-style-type: none">■県内学校との企画、調整<ul style="list-style-type: none">・授業単元計画組立て・単元進行のサポート・リモート当日授業案作成サポート■熊本県学校との連絡・調整<ul style="list-style-type: none">・授業単元計画の打ち合わせ・単元進行のサポート・リモート当日授業（2回）の授業案打ち合わせ■リモート授業司会者の派遣、企画打ち合わせ■リモート授業配信作業（機材レンタル、配信設定、オペレーション）
所感	<p>新潟、水俣、互いの水俣病に関する歴史から学ぶと同時に、それぞれの地域の魅力や特徴についても交換し合い、バトンを受け継ぐ子どもたち同士の交流がより充実したものとなった。また笹岡小学校と水東小学校との打ち合わせの機会を丁寧に持つことにより、進行もスムーズに、より意義深いものとする事ができた。子どもたち同士は初対面、オンラインという環境でありながら、また高橋なんぐの楽しい進行により緊張もすぐにほぐれ、のびのびと発表し合っていた。熊本と新潟の距離を超え、リアルタイムに両者の思いを共有できる交流となった。「水俣病発生地域」という共通点、新潟と熊本で向かい合っている二つの地蔵に込められた人々の願いに思いをはせていた。</p> <p>技術面においては、児童が使用するタブレットやロイロノート、司会のスライドや全体を映すカメラ映像の切り替えから、マイクを使った音声のサポート、加えてネットワーク通信においては、マルチパス TCP 通信を実施することで映像や音声をスムーズに送受信することができ、全体的な進行も円滑に進めてもらうことができた。</p>
資料	リモート授業実施内容、写真、取材記事

第1回リモート授業シナリオ 2024年 11月6日(水) 10:30~11:30

時刻	時間	進行	備考
8:30		リモート配信担当者(吉田)、ナマラ神田 笹岡小学校入り	
10:00		高橋なんぐ 笹岡小学校入り	
10:10		ふれあい館 藤田様、荒井様 笹岡小学校入り 水俣病資料館 本田様、浦様 水東小学校入り	
10:30	7分	授業開始 高橋なんぐ 挨拶 「皆さんこんにちは!高橋なんぐです」 「阿賀野市立笹岡小学校5年生の皆さんと、担任の関塚先生です。よろしくお願いします。」 「水俣市立水東小学校5、6年生の皆さんと担任の宮嶋先生です。よろしくお願いします。」 【高橋なんぐ自己紹介トーク】	進行 高橋なんぐ
10:37	3分	●ゲスト紹介 「ゲストの皆さんを紹介します」 「環境と人間のふれあい館からお越しいただきました」 ① 館長 藤田 伸一(ふじた しんいち)様 ② 副館長 荒井 俊人(あらい としひと)様 「続きまして、水俣病資料館よりお越しいただきました」 ③ 館長 本田 聖治(ほんだ せいじ)様 ④ 浦 萌木(うら もえぎ)様	番号順にお一人ずつマイクの前でお名前をお願いします。
10:40	15分	●学校紹介 「それぞれの学校や地域について紹介してもらいましょう。」 「笹岡小学校お願いします」(約7分) 「水東小学校お願いします」(約7分)	進行 高橋なんぐ
10:55	30分	●お楽しみ交流タイム ・新潟、熊本紹介コーナー ・児童アンケートを基にしたトーク 等	進行 高橋なんぐ
11:25	5分	高橋なんぐ まとめ ・(2月上旬)に第2回交流事業を行う。 ・それまでに学習したことを発表しあう。	

第1回リモート授業 写真①

▼オープニング▼



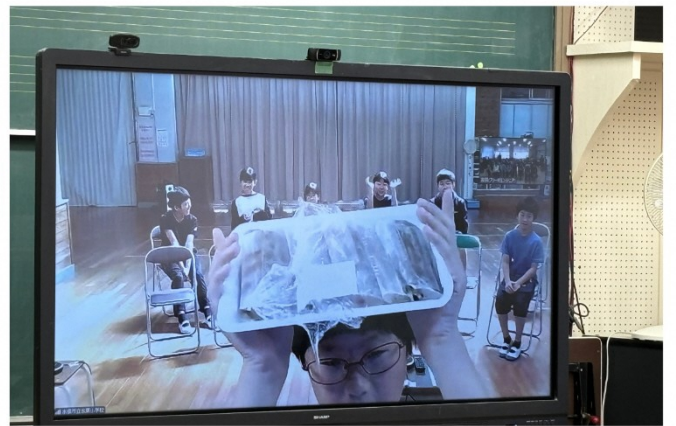
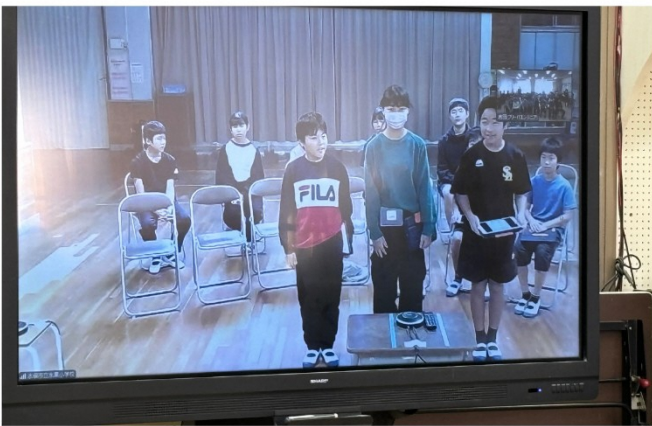
▼ゲスト紹介▼



▼学校紹介 笹岡小学校▼

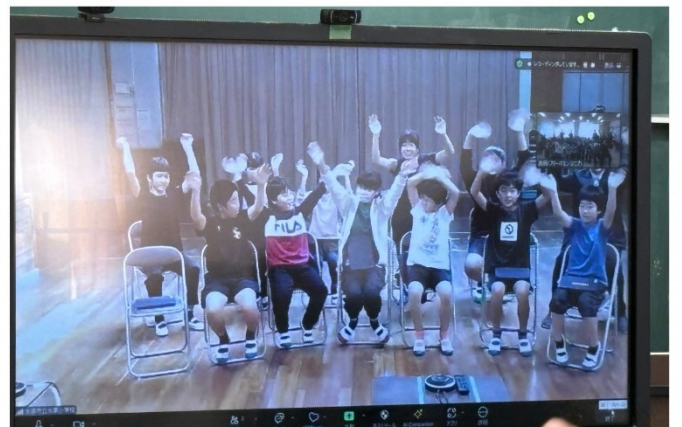
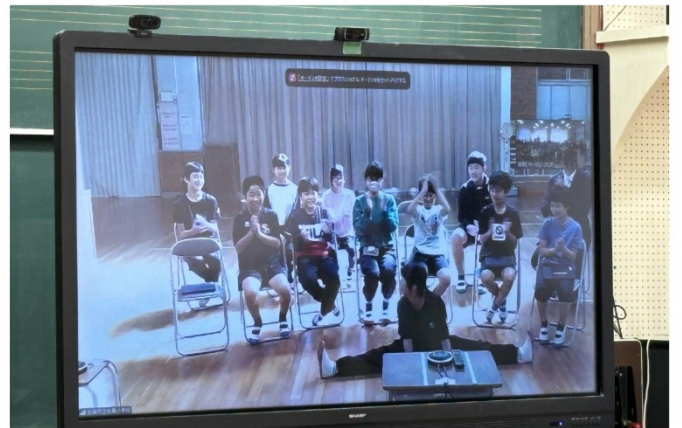
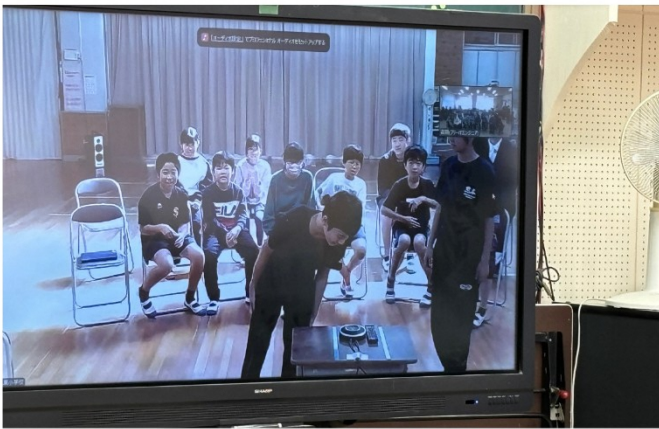


▼学校紹介 水東小学校▼



第1回リモート授業 写真②

▼お楽しみ交流タイム▼



第2回リモート授業シナリオ

2025年 1月29日(水) 10:20~11:50

時刻	時間	進行	備考
8:30		神田、オンライン担当吉田 笹岡小学校着 リモート準備開始	
9:50		高橋なんぐ 笹岡小学校入り	
10:00		ふれあい館（藤田様、荒井様）笹岡小学校入り 水俣病資料館（本田様、浦様）水東小学校入り	
10:20	10分	授業開始 ●司会者挨拶、トーク（前回の振り返りなど）	進行 高橋なんぐ
10:30	20分	●学習発表 第1部 笹岡小学校、水東小学校が交互で発表を行う 笹岡小学校 【第1部】（8~10分） ① 新潟水俣病について（始まり・原因・主な症状） ② 裁判の歴史 ③ 患者さんが受けた差別・偏見 水東小学校 【第1部 水俣病を学ぶ、水俣病から学ぶ】（8~10分） ① 水俣病の原因、症状 ② 患者さんの闘い ③ 私の学び（ふりかえり）	
10:50	10分	交流タイム	
11:00	10分	休憩	
11:10	20分	●学習発表 第2部 笹岡小学校 【第2部】（8~10分） ① 水俣市と阿賀野市のつながり（水俣地蔵） ② 笹岡小学校の環境への取組 ③ これから私たちが大切にすること	進行 高橋なんぐ

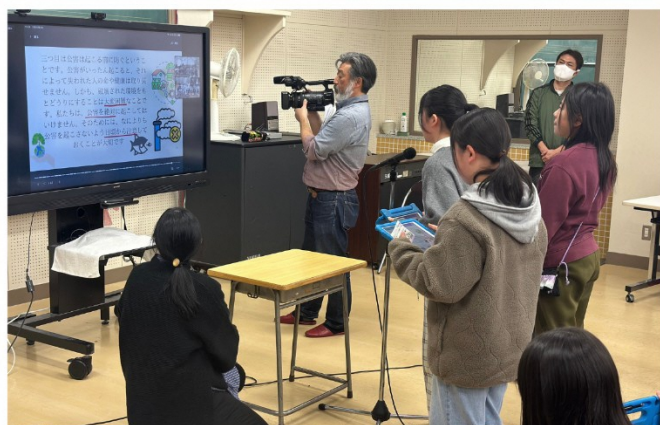
		<p>水東小学校</p> <p>【第2部 Think globally, act in Minamata】(8~10分)</p> <p>① 環境学習と学んだこと</p> <p>② 私たちができること～学校版環境ISO活動</p> <p>③ 水俣を生かした環境づくり</p> <p>④ 私の学び(ふりかえり)</p>	
11:30	10分	<p>●交流タイム・エンディング</p> <p>感想、まとめのトーク</p>	
11:40	10分	<p>●来賓ご挨拶</p> <p>水俣病資料館(館長 本田様)</p> <p>環境と人間のふれあい館(館長 藤田様)</p>	
11:50		終了	

第2回リモート授業 写真①

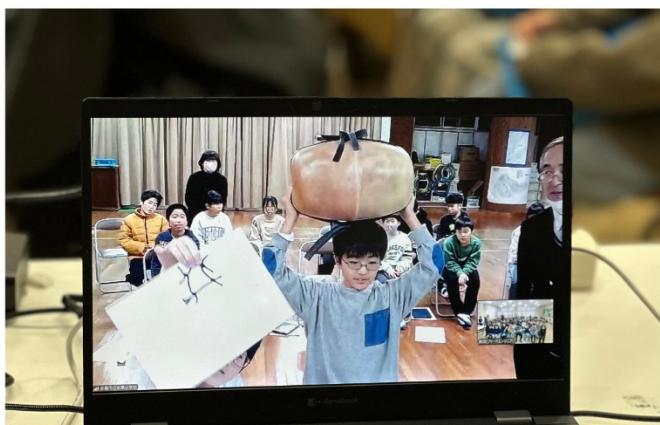
▼オープニング▼



▼笹岡小学校 学習発表▼



▼水東小学校 学習発表▼



第2回リモート授業 写真②

▼交流タイム▼



▼エンディング▼



▼配信設備▼

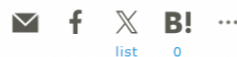


朝日新聞 > 記事

差別、偏見をなくすには 水俣病を学んだ小学生が出した答え

有料記事

山崎靖 2025年2月1日 7時30分



高橋なんぐさんの進行でリモート授業に参加する笹岡小の児童ら=2025年1月29日午前10時32分、新潟県阿賀野市の同小、山崎靖撮影



水俣病が起きた新潟県阿賀野市と熊本県水俣市の小学校をオンラインで結んだ交流授業が1月29日に開かれた。児童らは、水俣病の歴史や裁判闘争、差別や偏見に苦しめられた患者の思いなど、これまでに学んだ学習の成果を互いに発表。被害を繰り返さないために自分たちができることを探り合った。

ともに水俣病の発症地域である新潟県の阿賀野川流域の小学校と熊本県水俣市の小学校との交流授業は、2021年からリモート形式で続いていた。この日は阿賀野市立笹岡小学校の5年生28人と、水俣市立水東小学校の5、6年生12人が参加。約1千キロ離れた両校の教室をオンラインでつなぎ、画面越しにこれまでの学習の成果を発表し合った。

↓ここから続き

「水俣病は最初、たたりや謎の病気などと言われていました」。笹岡小の児童らは、新潟水俣病の被害者に対する差別や偏見の事実について発表した。画面に映し出したのは、水俣病患者が受け取った手紙。「二セ患者」や「金目当て」といった中傷の言葉が並んでいる。「差別、偏見を恐れて自分の被害を名乗り出られなかった人も多くいます」と説明した。

水東小の児童らは、差別や偏見で分断された絆を取り戻す「もやい直し」と言われる活動に、地域の人たちが取り組んでいることを紹介した。40年間、水俣病であることを誰にも話せなかったという女性から、直接聞いた内容も発表。「水俣病の本を読んで差別しているのは自分だと気付いて、語り部さんになりました」と語った、女性の心の葛藤を伝えた。

授業に参加した笹岡小の女子児童（10）は「熊本でも差別や偏見でつらい思いをしている人がいることを知りました。自分も差別されると悲しいので、相手のことをすぐに決めつけないで話をしながら知っていききたい」と感想を話した。

授業の進行役は、「新潟お笑い集団NAMARA」所属の芸人で長岡市出身の高橋なんぐさん（43）が務めた。高橋さんは各地の学校を訪問し、漫談スタイルの「お笑い授業」を続けている。「一生懸命勉強したことを誰かに話すことで、より自分のものになっていると思う。みんなが新たな語り部となって、学んだことを多くの人に伝えてほしい」。発表後、児童らに呼びかけた。

授業をサポートしている新潟県立環境と人間のふれあい館の藤田伸一館長は「1千キロ離れていても、リモートでつなげばお互いの地域で起きた水俣病のことを理解することができると感じた。これからも新潟と熊本の交流授業を続け、正しい知識を広げていきたい」と話した。

●テレビ取材 NST「Newsタッチ」 2024年11月6日、2025年1月29日放送

